

令和4年(2022年)6月9日

生徒の皆さんへ

北海道浜頓別高等学校長 三井 智和

開校記念日に当たって

令和4年(2022年)6月10日は、本校の72回目の開校記念日です。

本校は、昭和25(1950)年、教育水準の向上を願う地域住民と保護者の要望の高まりの中で、北海道稚内高等学校浜頓別分校定時制課程普通科として開校しました。浜頓別小学校の一教室を使用して授業を開始し、開校式を挙行了した6月10日を開校記念日と決めました。以来、昭和29(1954)年の全日制課程普通科の設置と校舎新築、昭和32(1957)年の道立移管、昭和38(1963)年の商業科設置認可と平成22(2010)年の商業科閉科などを経て、歴史を積み重ねてきました。

この地域の教育への熱意は、本校開校以前の昭和9(1934)年4月、浜富実業学校の開設にも見ることができます。上級学校への進学は都市部に出なければならず、富裕層の子弟でなければ進学が困難な時代に、当時の頓別村の予算5万余円のうち、1万円を投じて校舎を建築し、産業教育の発展を願って3学級編制で始まった記録が残されています。凶作と不漁による町財政の疲弊の中、昭和13(1938)年にやむなく閉校に至りますが、教育に対する熱意は、終戦後の学制改革による高等学校の発足後にも、今の浜頓別高校の開校に向けて引き継がれました。

そうした地域の期待に応えるように生徒はよく学び、昭和52年、第8代佐藤全校長により制定された3つの生徒指標「謙虚で思慮深い人間となれ」「志を立てて困難に打ち克つ人間となれ」「健康で人のために尽くす人間となれ」を体現し、町内や道内、国内で活躍する卒業生は6,500余名を数えます。

少子高齢社会の進行により、学校規模は縮小していますが、本校教育に対する地域からの期待と信頼は、開校当時から脈々と引き継がれています。本校の掲げるスクール・ミッションの一つである「自分の在り方・生き方を深く考え、本校の社会的役割を認識しながら地域の未来を担うことのできる生徒の育成」を目指して、生徒の学習意欲を喚起して主体的に学ぶ態度を養い、より高いレベルでの進路実現を図れるよう、授業や特別活動を実施し、地域の人々の期待に応えられる学校づくりを目指したいと考えています。

皆さんの学舎は、これまでのさまざまな歴史の積み重ねの上に存在しています。これまで諸先輩が担ってきた「進む文化の ゆくてをひらく」の精神を受け継ぎ、浜高生としての自覚を新たに、さらなる飛躍ができる一歩を踏み出す日としてほしいと思います。先輩方が築き上げた伝統を踏まえ、新たな浜頓別高校の歴史を作るのは皆さん一人ひとりです。

昭和62(1987)年の現校舎改築まで使用された旧校舎(昭和30(1955)年落成)。高校設置を進めるために、町が巨財を投じて建築した、歴史の証です。

